

分配から生成へ

ー 学びのプラットフォーム としての生涯学習行政ー

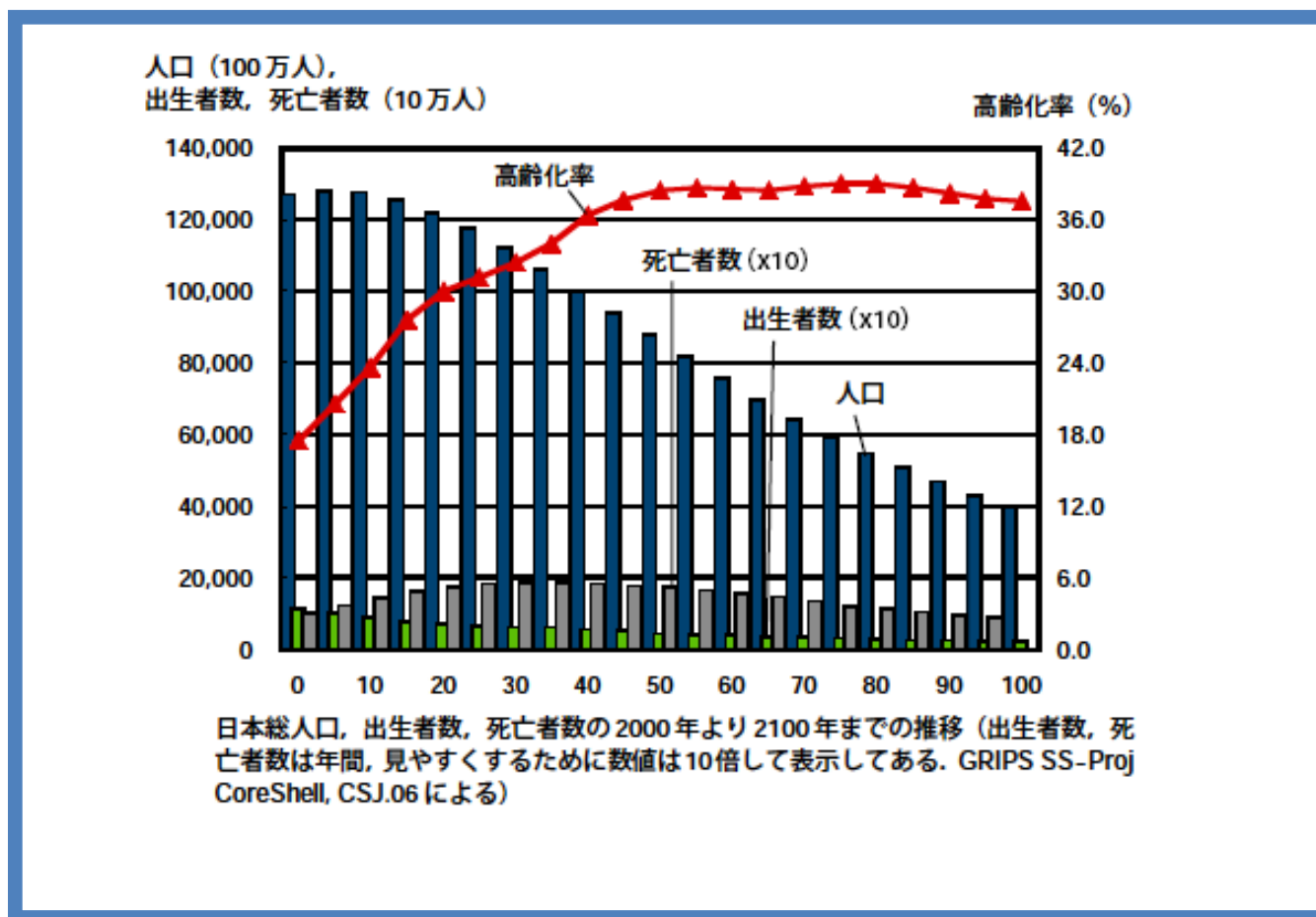
牧野 篤(東京大学大学院教育学研究科)
中央教育審議会教育振興基本計画部会ヒアリング
2011年10月20日

・わが国が直面する問題

- 1 . 少子高齢化の進展
- 2 . 社会格差の増大・固定化
- 3 . 地域社会・家族の変容
- 4 . 産業構造・雇用の変化
- 5 . グローバル化の進展
- 6 . 公債残高の累増・財政の限界、
国と地方、官と民の関係変化
- 7 . 東日本大震災の発生により、
課題が顕在化するとともに、
一層の加速化が懸念

1. 日本の直面する課題(1): 少子高齢化

日本の高齢化率と総人口推移予測(厳しい予測)



高齢化率の推移

	1975年	2008年	2035年	2055年
全国	7.9%	22.1%	33.7%	40.5%
(後期高齢者)			18.0%	22.0%
超				
東京都	6.3%	20.2%	30.7%	
愛知県	6.3%	19.2%	29.7%	
秋田県	8.9%	28.4%	41.0%	
島根県	12.5%	28.6%	37.3%	

あと20年で首都圏高齢者1000万人時代
うち600万人が後期高齢者(75歳以上)

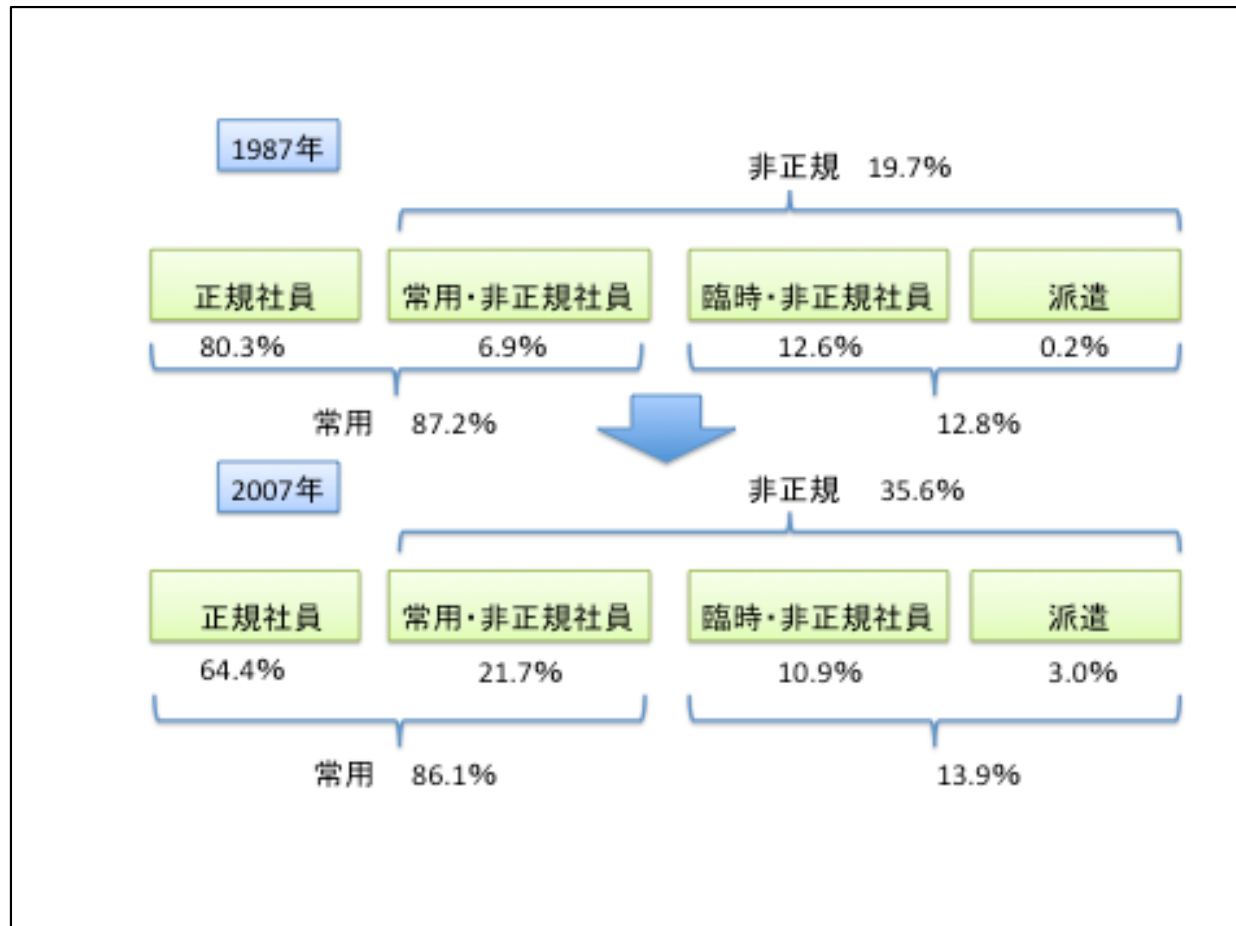
市場が縮小

福祉 = 財政動員による市場の拡大が無意味化

これまでのような市場主義では公的保障は後退する

自己責任・自立が叫ばれる

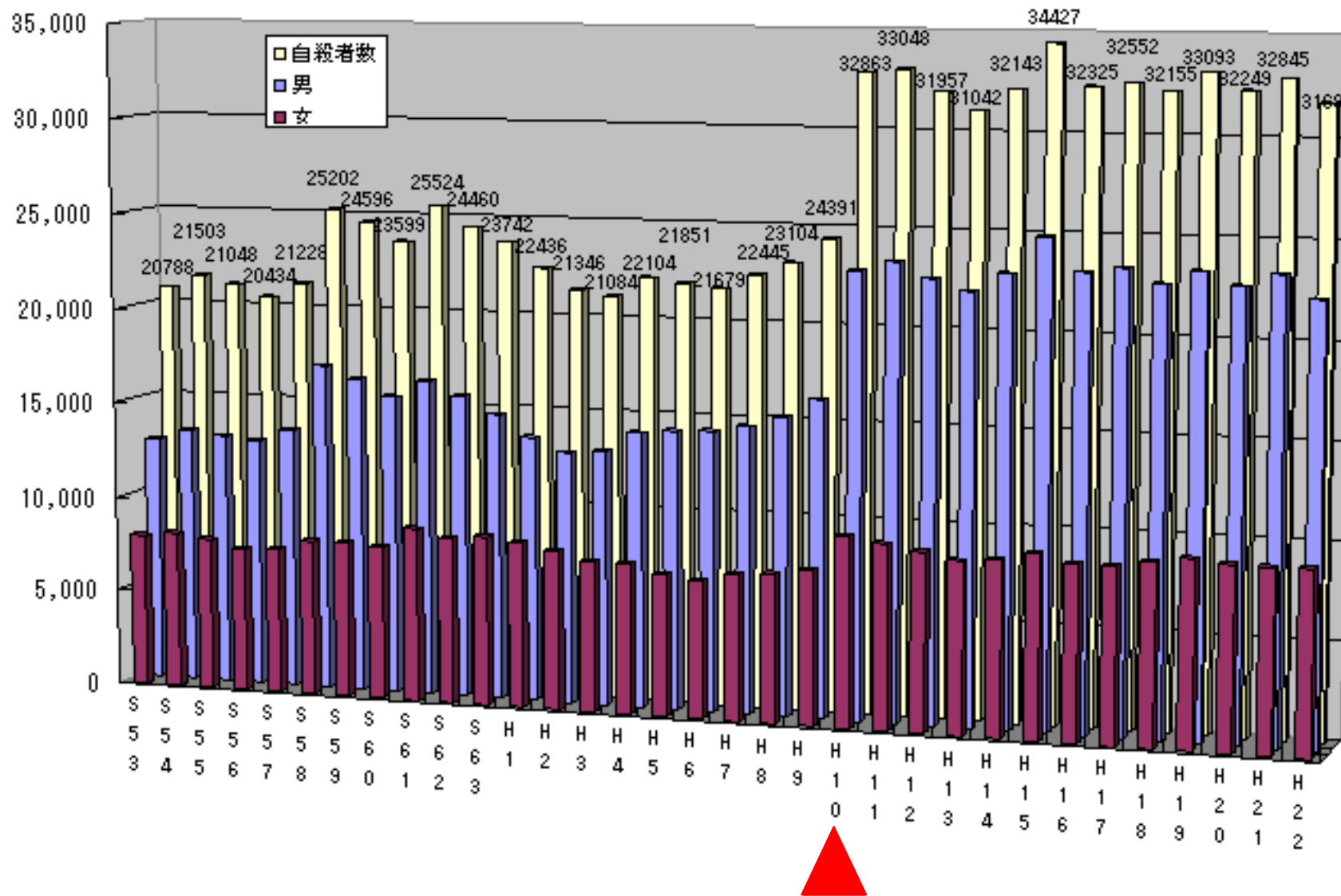
1 日本の直面する課題(2): 経済問題 自殺者の多さ



常用・正規から常用・非正規へ
生活不安が広がる
「働くこと」への誇りを奪われる

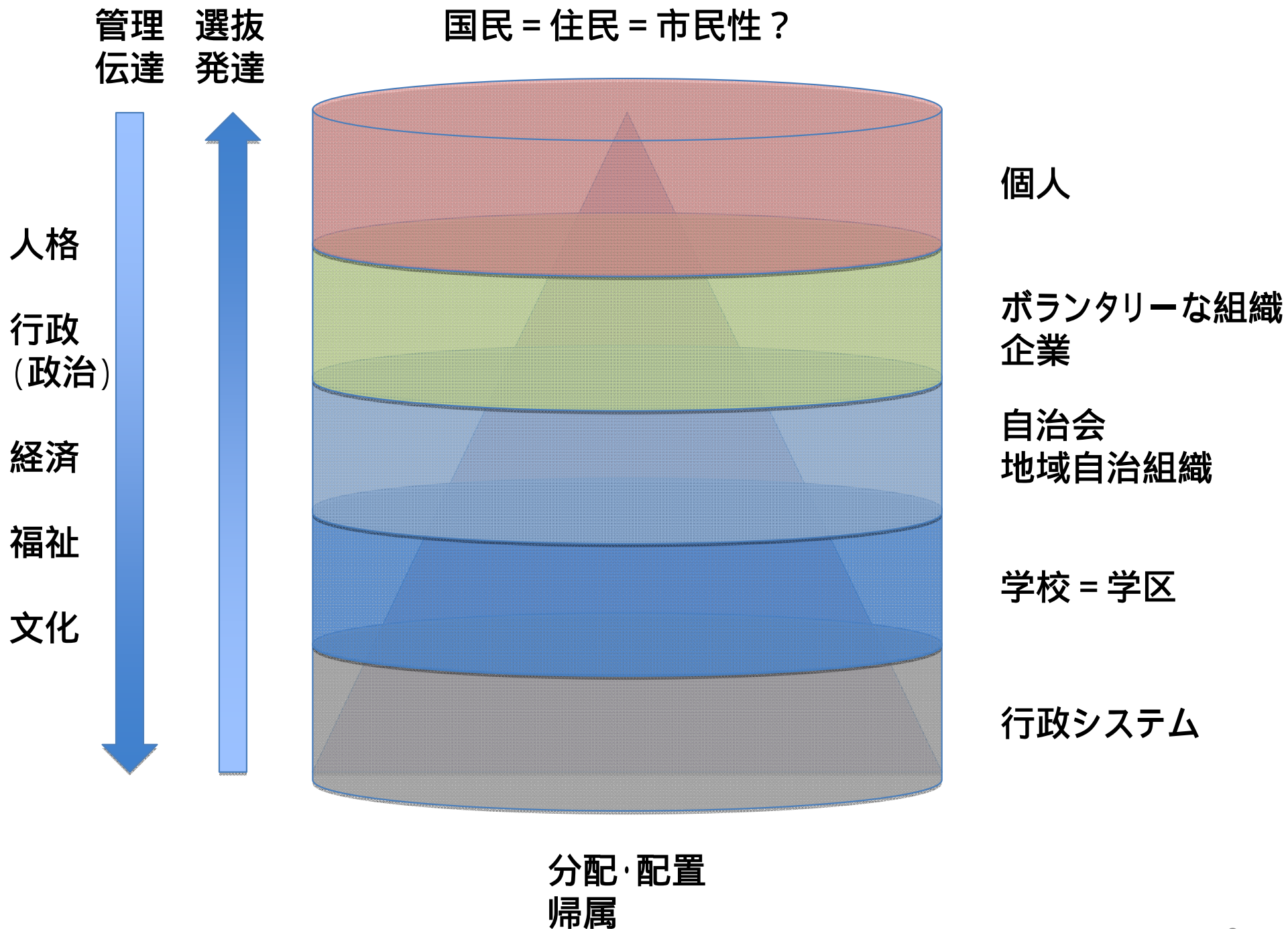
自殺者数推移(1978年～2010年)

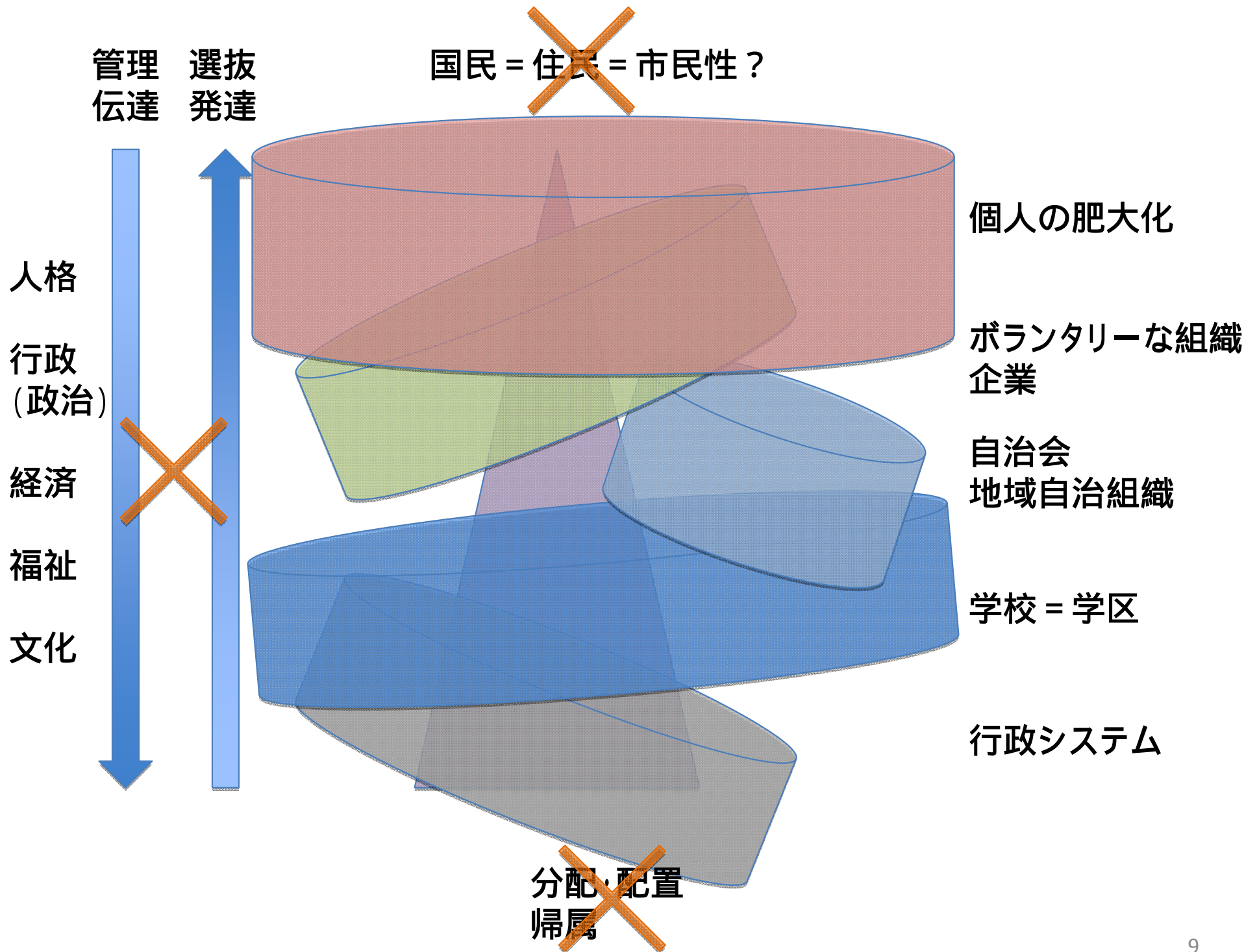
1998年に急増 3万人台を推移



1. 日本の直面する課題(3): 基礎自治体・基層自治組織の疲弊・解体

国民 = 住民 = 市民性？





1. 日本の直面する課題(4):人々の孤立化

人々の「つながり」の切断

孤立化する人々

「意味」にすがる若者たち

孤立こそが「意味」への依存を招く

自己に飢える = わたし への病に冒される私たち

私の友だちは、リストカッターです。
自分でもわからないけど、
なんとなくリストカットをするのだといいます。やめられないのです。

わが国が直面する諸課題は

若者を中心とした わたし のありよう
= 「自我」に収斂している

人の育ちと学びの関係を、原理的に問い返す必要

そこから、行政の役割を導き出す

・問題の打開に向けた方向性

- 1．個々人の社会への参加保証
- 2．社会全体や個人における生産性・創造性の向上
(イノベーション等)
- 3．社会全体の力の向上

活力があり、持続可能な社会への好循環

2. シニア世代の価値観とシニアプロジェクト: 岐阜くるる

産学協同シニア・プロジェクト: くるる(聞_く・見_る・す_る)

セミナー風景



シニアPC講座

いきいき健康講座



社会関係的存在から自律的アクターへの転換

社会的な事物への強い好奇心と、自分への強い関心、そして積極的に前へ進もうとする強い自律性・自立志向

存在の根拠であるべき尊厳のとらえ方が、社会関係依存的なものから**自律的なアクター**としてのものへと移行

シニアは、社会関係に規定されて他者から承認を受けることで自己を生かしていこうとすることから、自ら社会に働きかけ、自分の満足を得ようとすることで、社会に影響力を及ぼしていく、いわば社会的な**能動的アクター**へと移行してきている

3. 地域の人的ネットワークの結び直し: 柏くるるセミナー

くるる = 聞く・見る・する

牧野の岐阜での高齢者支援セミナー事業「くるるセミナー」がベース
セミナーで引き出し、熱中させ、仲間を作り、社会に展開

そのための仕掛け作り

地域の人々が新しい仲間やネットワークを作り
地域社会へと繰り出し、
地域社会に貢献できる枠組みを構築

楽縁・志縁で地域を覆う

柏くるるセミナー

聞く 見る する

柏市・社協・東大連携コミュニティ事業

男の料理道場

めんどくから 男道倶楽部

男道を極めてきたシニア世代に贈る
料理初心者のための講座

一から作らない
レトルト食品などを活用して
一品料理へ大変身!

妻が外出でも大丈夫といえる
“新たな男道”を目指します!

“面倒な料理”が
“男道な料理”に!



10/20 11/17 12/15

各火曜日 午前10時～午後1時 計3回
場 所 高柳近隣センター 調理室
内 容 レトルトや冷凍食品等を利用して“一から作らない”簡単料理を参加者と一緒に考えます。
対 象 市内在住・在勤の男性で料理は初心者の方定員20名(※応募多数の場合は抽選)
持 ち 物 マフロン、布巾
材 料 費 1,500円(500円×3回分)
申 込 み はがきに、講座名を明記し、住所、氏名、年齢、電話番号、志望動機を書いて下記まで締切9月30日消印有効
申 込 先 高柳近隣センター
〒277-0941 柏市高柳1652-10 TEL7183-1110
問 い 合 せ 柏市市民活動推進課

04-7167-1126



アロマの香りで広がる コミュニケーション講座

柏市・社協・東大連携コミュニティ事業

柏くるるセミナー

くるるとは 聞くのく 見るのる するのる
魅力的で社会の役に立つ生涯学習をテーマに、
新しいセミナーを企画しています

日 時 10/13 10/27
11/10 11/24 12/8
各火曜日 午前9時30分～11時30分
計5回

場 所 高柳近隣センター 会議室

対 象 市内在住・在勤の女性で、
アロマに関心のある方 20名

材料費 実費負担
内 容

講師
アロマセラピスト

・香りに親しむ
・エッセンシャルオイルについて
・実習：芳香浴

安らぎのハンドトリートメント
・トリートメントとは?
・実習：手浴・バスソルト作り

タッチングと心のケア
・香りのメカニズム
・実習：トリートメントオイル作り

アロマテラピーでホームケア
・家族コミュニケーション
・実習：ハンドトリートメント

アロマテラピーとボランティア
・身近な人へのケアと
介護への取り入れ方
実習：ルームスプレーor香水



はがきに、講座名を明記し、住所、氏名、年齢、電話番号、志望動機を書いて下記まで

高柳近隣センター 〒277-0941 柏市高柳1652-10
締め切り9月30日消印有効 ※ 応募者多数の場合は抽選

問合せ 市民活動推進課 TEL 7167-1126

4. 新しいまちの構想：つながりをつくるまち

コミュニティレベルでの つながり をつくりだす

- Aging in Place から ALL in Place へ
Aging in Place, Living in Place
and Loving it in Place
- 多世代と一緒に住み、交流するコミュニティ
- シニアがまちの宝になる
 - 安心 安全
 - つながり いきがい 尊厳 健康
 - 互いに認め合う まち
- 集えるレストラン、給食サービス、地場野菜、家庭菜園、パン工房、訪問医療・看護、お話会、読み聞かせ、介護者の交流など
- パッケージ化
- さらに、Learning in Place

拠点の形成

ネットワークの形成
新しいweb状ネットワーク

地場産業との連携

交流

レストラン・カフェテリア
工房(パン工房など)
アロマサロン・マッサージ
(単なる集会施設ではなく)

小中学校 / 幼稚園
大学との連携

学習

いきがい

安心

セミナールーム
レストラン・カフェテリア
ボランティアルーム

訪問医療・訪問看護・
訪問介護センター

地域医療システムとの連携

5. 多世代交流型コミュニティの構築

多世代交流地域循環型地育事業のゴールとは？

多世代が交流し…

- ・子どもは、地域にたくさんの「大人の家族」ができること
- ・大人は、地域にたくさんの「子どもの家族」ができること

地域が循環する…

この事業が、他の力を借りず、

運営面・経済面で自立すること

地育事業

すなわち…

地域がひとつの大家族になること

「わたし」は木で、
「わたしたち」は森。
この森に、
多くの木が育つことを願います。

「たまご」プロジェクト

たまご = 他 + 孫(よその子を孫にしよう)

そうすると

多 + 孫(地域の子ども全体が自分の孫になる)

6. 「つながり」をつくりだす社会実験：農業と若者の雇用創出

M-easy：無農薬野菜の生産と流通



やさい安心くらぶ：働く場の形成

無農薬野菜

名大出身の3人



相次ぐ食品偽造問題などで食の安全への関心が高まる中、名古屋大学出身の若者三人が無農薬野菜の移動販売をスタートさせた。扱うのは慣習は売り物にならない形がふぞろいなもので、農家が自家用に栽培したものを安値で仕入れ、手ごろな価格で売っている。見た目より安全な味を重視する消費者のニーズをつかみ、口コミで利用者が広がっている。

安心お届け

移動販売でアピール

移動販売を行っているのは工学部出身の戸田友介さん(27)、教育学部出身の清田育代さん(28)、理学部出身の竹内匡史さん(27)の三人。昨年九月、「やさい安心くらぶ有限責任事業組合」(名古屋市中区)を設立、十二月から始めた。現在は名古屋市内各東区や愛知県長久手町など、同市やその周辺4カ所を回っている。

形はふぞろいだが二に割れたニンジン、角張ったじゃがいも。軽トラックの荷台に並ぶのは形がふぞろい野菜ばかり。もともと農家が自分で食べるために栽培した無農薬野菜だ。それを安く譲っても売れているのより手ごろな価格で売っている。一人が農とかわり売ったのは名大生だった。〇〇一年、学内の勉強などで、日本の食料自給率の低さ、農家の高齢化で休耕地が増えていることを知ったのがきっかけだ。BSE(牛

振り込み詐欺対策で、全国の警察は現金支給日の十三日、ATM周辺などに数万人の警察官を配置し、利用する高齢者に注意を呼びかけるなど集中警戒を始めた。

「こんな食料好きな野菜が売れるのか。当初の仕入れ先の農家の心配をよそに、利用者からの評判は上々だ。名古屋市の移動販売所に託した同県日進市の主婦(64)は「形がふぞろいな方が自然に安いのかもしれない」と褒め、戸田さんは「丁寧に説明すれば、形が悪くても買ってくれる」と自信を見せる。

リピーターも急増中。口コミで来客は開始当初の三倍に伸びており、多い日で、日田近くが訪れるという。最近では仕入れ先の農家からも「こんなに売れるはもったいない」との声が寄せられているという。三人は二年前から同県常滑市に移り住み、遊休農地約一ヘクタールを借りて、無農薬野菜の収穫量を安定させる方法を模索する。戸田さんは「無農薬農業で生活できる環境をつくり、多くの若者を農村に呼び込みたい」と夢を膨らませる。

振り込み詐欺対策で、全国の警察は現金支給日の十三日、ATM周辺などに数万人の警察官を配置し、利用する高齢者に注意を呼びかけるなど集中警戒を始めた。

振り込み詐欺対策で、全国の警察は現金支給日の十三日、ATM周辺などに数万人の警察官を配置し、利用する高齢者に注意を呼びかけるなど集中警戒を始めた。

愛知は3800カ所に警察官 無人ATMに重点

振り込み詐欺対策で、全国の警察は現金支給日の十三日、ATM周辺などに数万人の警察官を配置し、利用する高齢者に注意を呼びかけるなど集中警戒を始めた。

振り込み詐欺から年金守れ

振り込み詐欺対策で、全国の警察は現金支給日の十三日、ATM周辺などに数万人の警察官を配置し、利用する高齢者に注意を呼びかけるなど集中警戒を始めた。



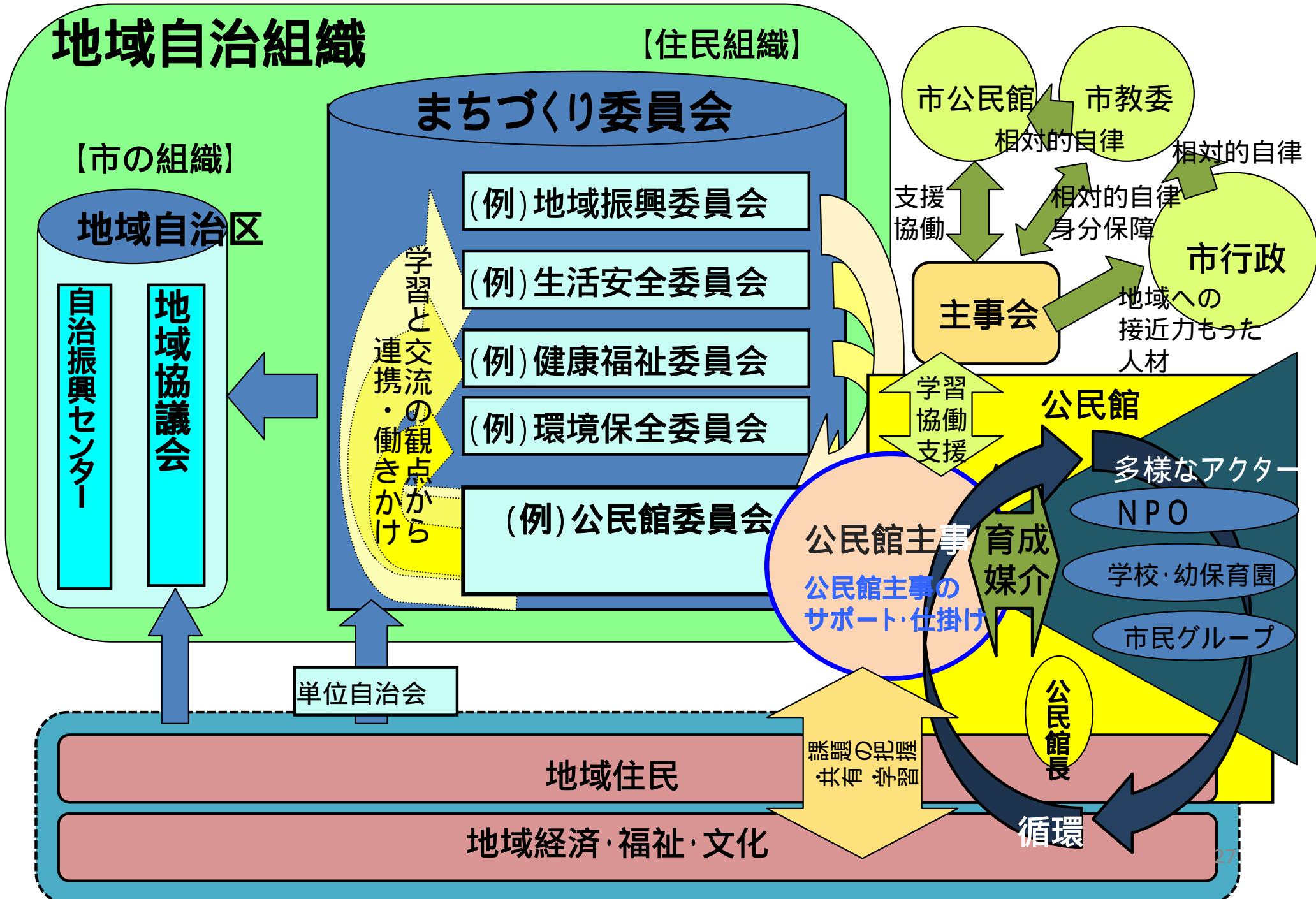
過疎地・農山村支援と働く場所の創出



7. 基礎自治体との共同学習による地縁共同体の再編：飯田市への調査



地域公民館の新たな位置づけ(イメージ)



8. 「ものづくり」の社会化：市民の創造性と社会とを結ぶハブ 産業・雇用創出 MONO-LAB-JAPANの活動

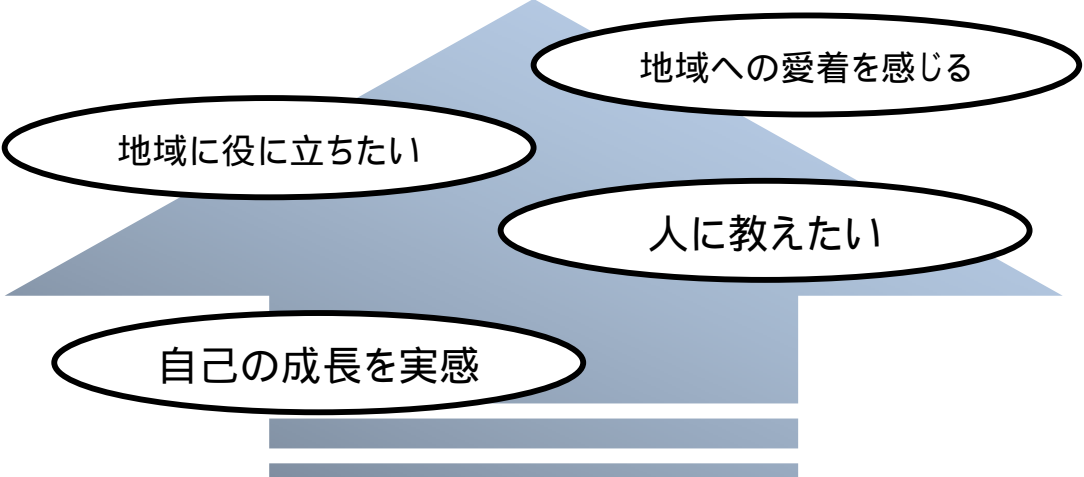




9. 評価のあり方

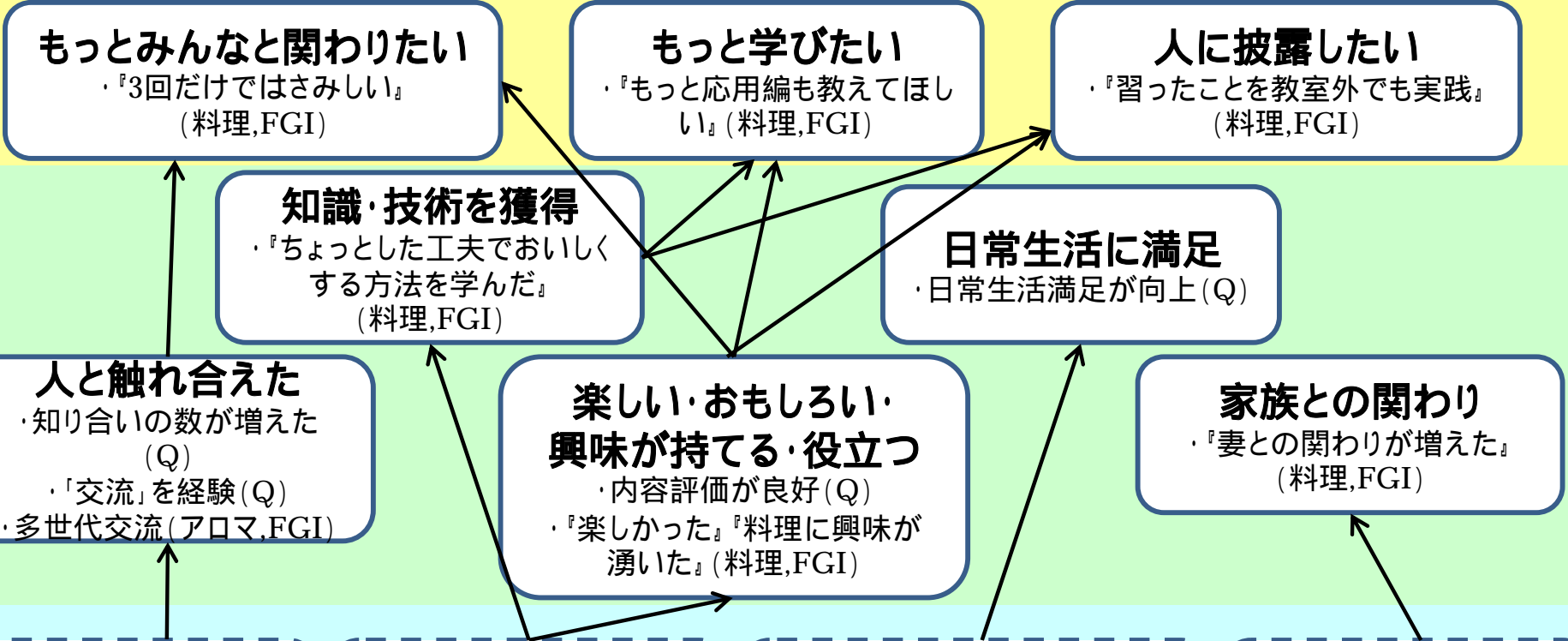
学びの効果

今後期待される効果

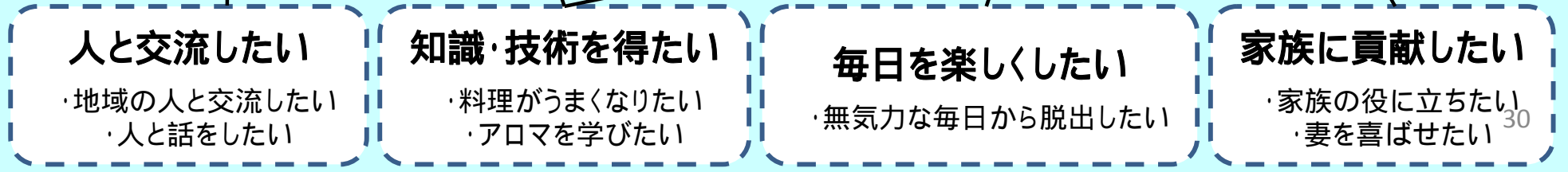


(註)
Q : 質問紙調査
FGI: フォーカスグループ
インタビュー調査

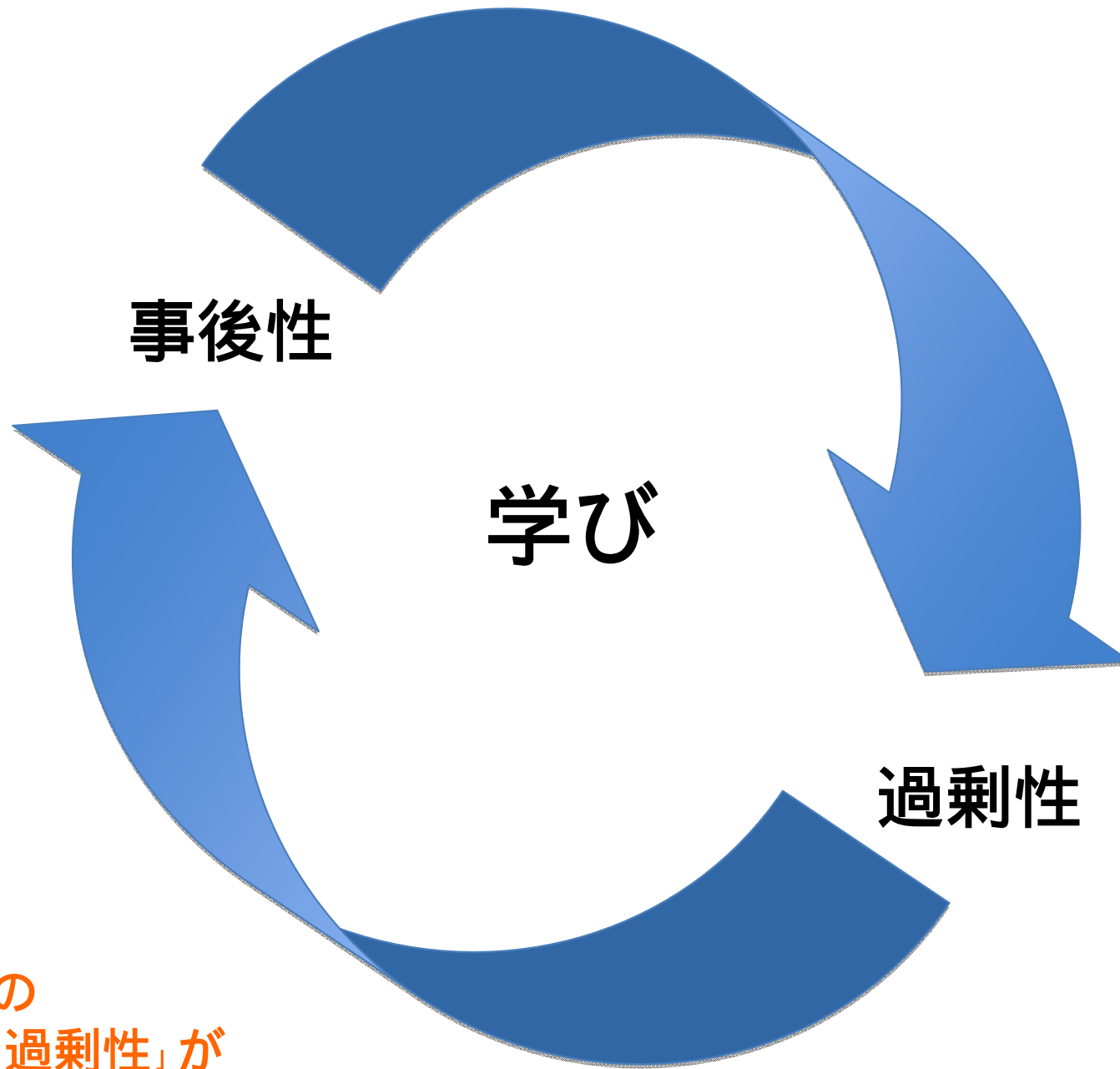
効果



動機

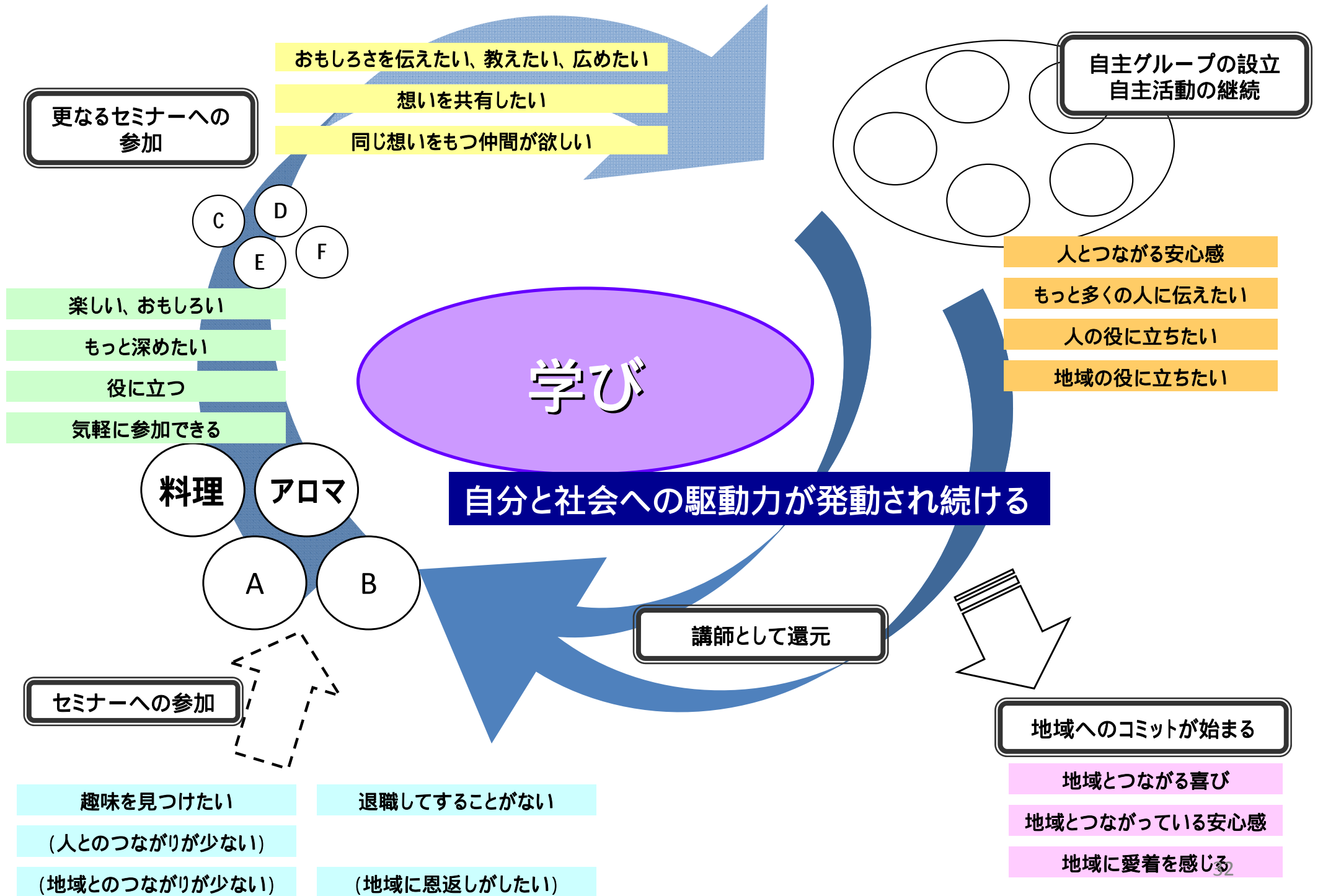


10. 学びの事後性と過剰性：つながりへ



個人の学びの
「事後性」と「過剰性」が
わたしをわたしたちへと立ち上げて
コミュニティをつくりだす

横断的变化・概念図：事後性と過剰性



11. 学び とコミュニティの形成:分配ではなく生成として

持続可能性について

Sustainable Development

本質主義的に「なにか」を開発すること
個人の内面にあるものを引き出すこと
それを持続させること

現象学的に常に生成すること
「そうある」私をつくりだし続けること
私が「他者」「環境」との間で生まれ続けること・
変化し続けること

12. 想像力と過剰な循環(贈与・答礼)

「想像力」を生み出す

公共財としての環境 = 農業
公共財としての人間関係・つながり
商店街・コミュニティ

想像力

「共同体の果てるところ」に市場が形成される

見えない他者への想像力

「商品」の背後にあるもの = invisible asset への想像力

商店街は「商品」を売っていたが、
本当は、その背後にあるものを売っていた

* 事後性

* 贈与 = 交換の原則

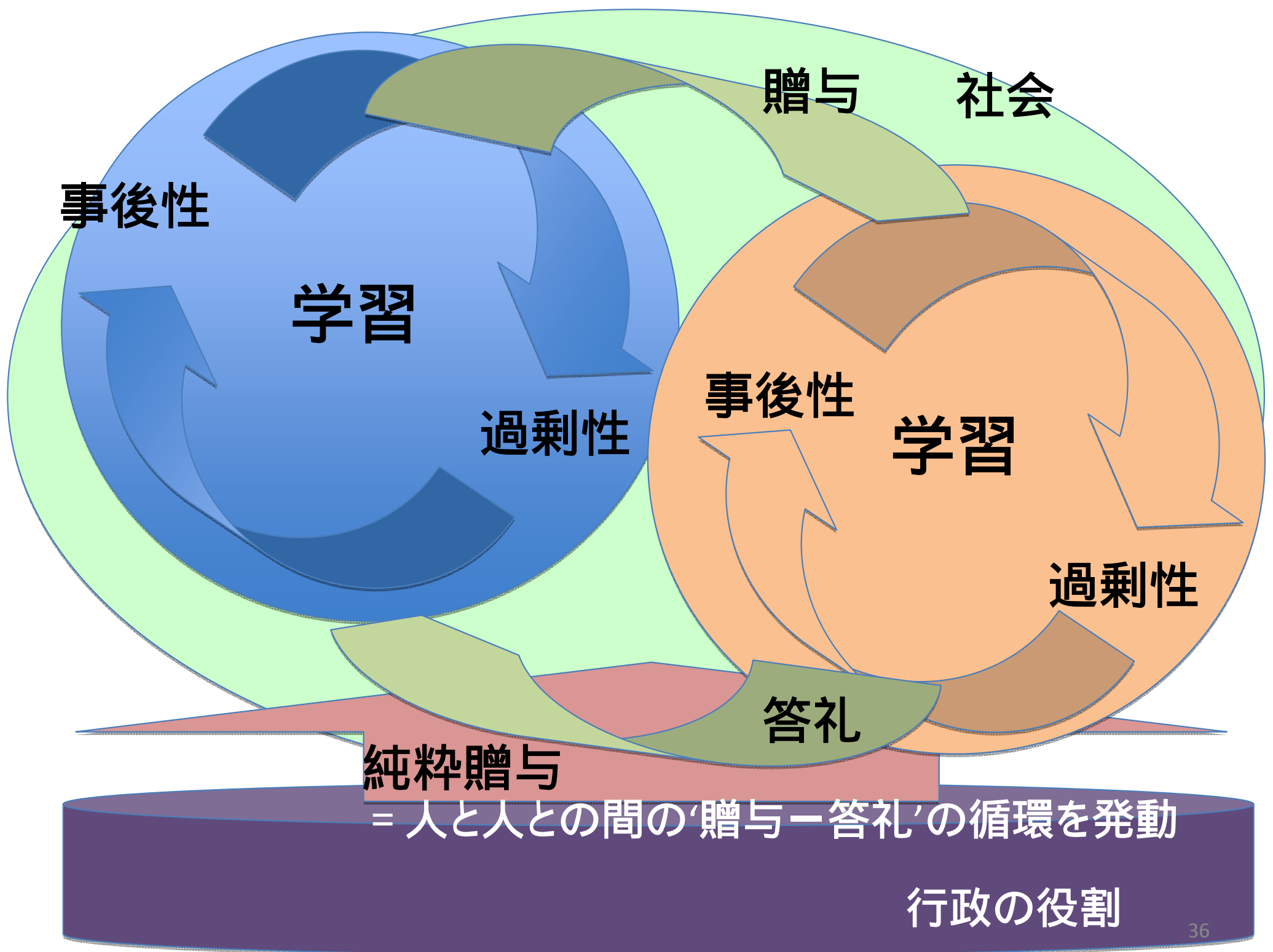
* 「知」を媒介とした、新しいコミュニティ

* 「知」が媒介する、自分と他者との関係

* わたしは、他者を介して、自分を見つめる目を持つことになる

* 自分をはっきりする

* 「知」は商品ではなく、社会をつくり出す
基本的な資本



・教育行政の方向性

絆づくりと活力あるコミュニティの形成

- 1 . 学びのセーフティネットの構築
- 2 . 社会を生き抜く力の養成
- 3 . 未来への飛躍を支える人材の養成

13. 学びのOSへ

学びのOSとしての生涯学習

単一のアイデンティティをもつ
近代産業社会 = 近代国民国家への帰属
= ストック・システム **分配**



権力関係を可視化し、社会への参加によって
多様な利害と権力のダイナミクスの行使をともなう
政治主体としての市民



わたし の生成の「自由」を保障し合う
相互承認というプロセス
多様なアイデンティティを持つ わたし
= フロー **生成**

このプロセスを保障するためのOS
= ことば による自己への駆動力の生成

14. 他者と出会う場としての「社会」

他者と出会う場としての「社会」

「社会」を学習という形式で構成する
学びのプラットフォーム = 生涯学習

他者との関係において常に生成し続ける自己
自己の存在そのものが「学習」という形式によって
生成し、変化し続けるものとなる

「知」を生み出し続け、自ら生成し続けるもの
としての自己と社会

その基盤としての「想像力」

「想像力」を駆動させ、
私を わたしたち であることによって
わたし である私へと生み出し続ける

その場が地域社会と相互に媒介し合う大学

わたし への病から解放される

15. 多元性の持続的生成

多元性を保障する行政 = プラットフォーム

多元的なOSとしての生涯学習基盤の形成

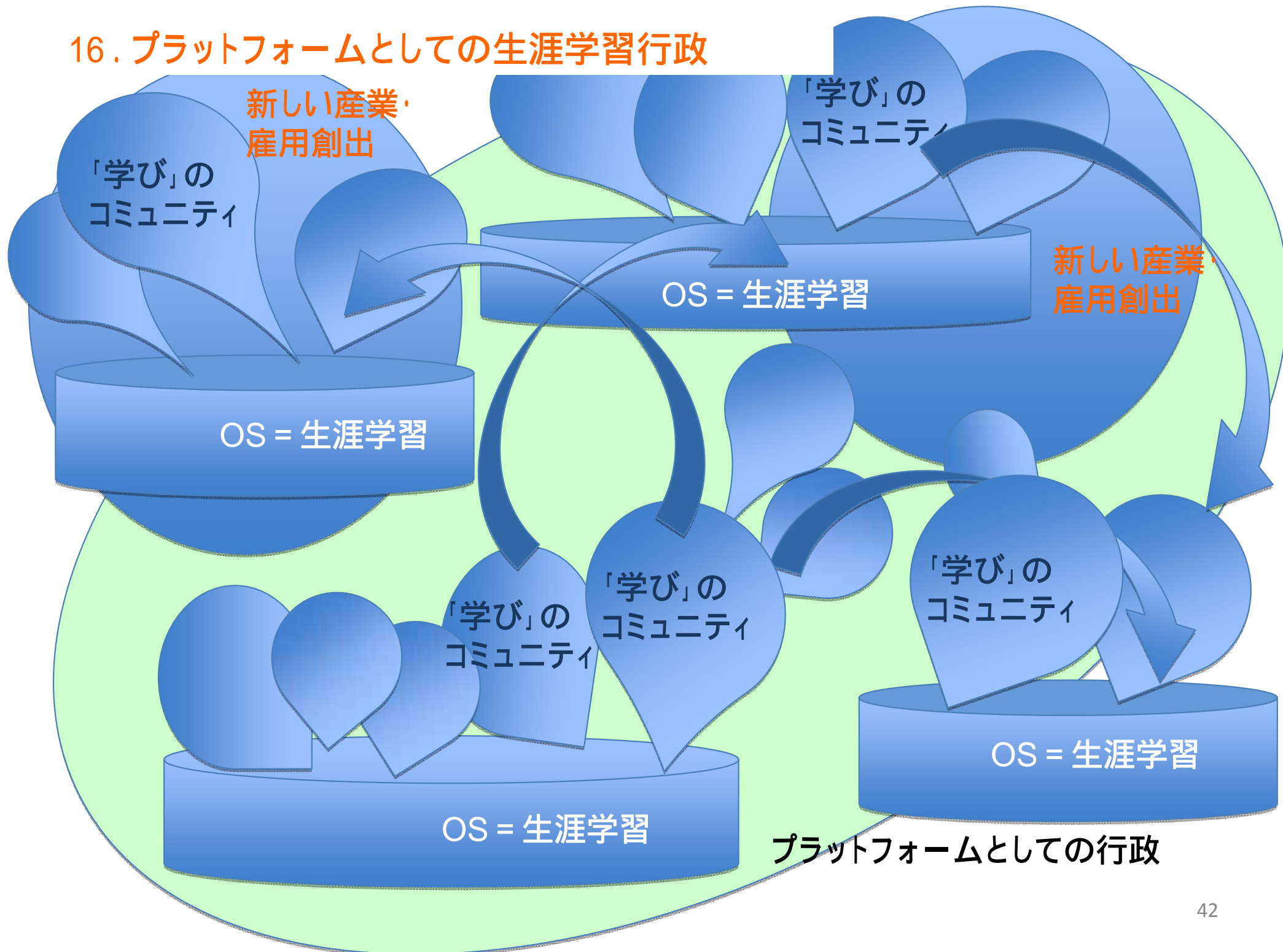
OSにおいて多様で自由な 学び のコミュニティが展開

評価は各コミュニティにおいて多元的になされる

大学・教育機関はOSへのソフト・人材供給と課題・研究

「 学び のコミュニティ」ベースの産業・雇用創出

16. プラットフォームとしての生涯学習行政



17. 一つの方向性

わたし がつねに わたしたち
として生成し続ける社会

帰属 = 分配への一貫性 = アイデンティティではなく、
過程 = 生成にもとづく持続がアイデンティティとなる
多元性と多様性

社会全体が多元的なコミュニティに覆われる

「強い社会」(画一的な強い個人が屹立するのではなく、
多様で個性的な個人が支え合うことで「強く」ある社会)

分配を評価する = PDCA(plan-do-check-act)サイクル

予期せぬ生成を受け止める

= VPS(vision-participation-satisfaction)

= 事後性・過剰性サイクル

= 生成・多元性サイクル

= 自己と他者への駆動力の発動